

いきいき健康術 第53回

『尿路感染症について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院長の佐藤秀一郎先生。自覚症状が少なく、気がつかない間に腎臓機能が低下してしまっている尿路感染症についてのお話です。

尿

路感染症とは、腎臓から尿道までの尿路に起こる感染症です。ほとんどが細菌(大腸菌、ブドウ球菌、腸球菌など)によって起こりますが、ウイルス、真菌、寄生虫などが原因になることもあります。発症経路から急性と慢性、基礎疾患の有無から単純性と複雑性に分けられ、次のような病気を引き起こします。

急性膀胱炎

排尿痛、頻尿、尿混濁が三大症状で、血尿、残尿感、尿失禁などを伴うこともあります。アルコールや刺激の強い食べ物を控え、水分を十分摂り、抗菌剤や抗生剤を服用すれば比較的簡単に治ります。

急性腎盂腎炎

発熱と腰痛で急に発症し、悪寒戦慄や高熱(三八―四〇度)を伴います。原因となった細菌の七八割が大腸菌で、安静、水分摂取、抗生剤の点滴や内服を行います。

慢性(複雑性)膀胱炎

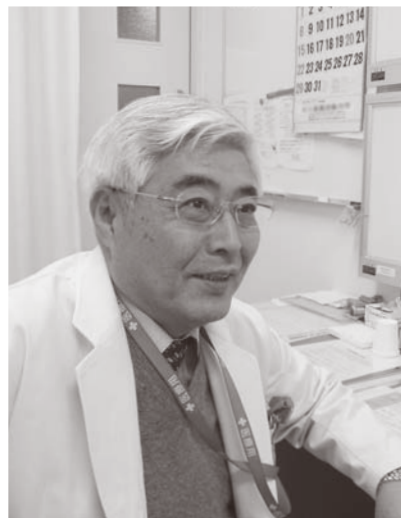
中高年の男性では、前立腺肥大症、前立腺がん、神経因性膀胱、膀胱がんなど、また、女性では過活動性膀胱、膀胱がん、膀胱下垂、瘤などの基礎疾患を持つ方が多く、再発や再燃を繰り返すことになります。

尿路感染症にならないために

心にゆとりを持ち、体に無理をさせないことが第一です。日ごろから次のことに注意しましょう。

- ① 体(特に下半身)を冷やさない。
- ② 疲れすぎない程度に適度の運動をする。
- ③ 水分は日中多めに摂取し、夕方から控える。
- ④ 尿意を我慢しすぎない。
- ⑤ アルコールは控えめにする。
- ⑥ バランスよい食事で便通を整える。

もしも尿路感染症かなと感じたら、病院か診療所で検査をして、しっかり治してください。



院長 佐藤 秀一郎先生
(京丹波町病院)

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
☎ 86-0220